

日展ニュース

No. 193

<https://www.nitten.or.jp/> 令和8年6月30日発行

編集兼発行人 神戸峰男

第90回 定時総会



浅間山・冬（浅間山・風） 小山敬生（敬三）

日展理事長に就任して

宮田 亮 平



第一一九回を迎えるこの歴史ある日展の理事長に再任という大役を仰せつかりました。大変身の引き締まる思いでございます。

これからもより良い日展運営に邁進したいと存じます。そして神戸事務局長をはじめとして副理事長の先生方も再任されましたこと誠に心強い思いで、いっぱいでございます。来る来年度は一二〇周年という大きな節目となります。より世の中にときめきを、生きる喜びを与えることのできる作品を制作すべく発信していく所存でございます。どうぞ皆様のご支援ご協力をお願いいたします。

日展副理事長・事務局長に就任して

神戸 峰 男



この度、副理事長・事務局長の再任を仰せつかりました。引き続きの御指名に、改めてその責任の重さを痛感いたしております。

日展は来年（令和九年）に、一二〇回展を迎えます。明治四〇年に始まった日本初の美術公募展は、まさに日本の近・現代史とともに歩み、様々な苦難の中にあっても留まることなく、我国の美術文化界を牽引し続け、また多くの優れた作家を輩出し続けて参りました。この輝かしい軌跡はかけがえのないものです。次世代に継承していくべき個々の作家の多様性の集合体であり、表現創出の「場」であります。

会員各位の創作の夢に共感しつつ、日展がこれからも国民から愛される「場」であり続けることを目指して参ります。

日展副理事長に就任して

土屋 禮 一



この度、副理事長を再度仰せつかりました。

文部省主催の官展を前身とし、今も日本最大級の総合公募美術展としての長所を改めて活かすと共に、これからの若い作家の信頼を失わない組織でありつづけること、宮田理事長の元、日展の更なる発展の為に尽したいと思っております。これからも皆様の御支援をよりよくお願い申し上げます。

日展副理事長に就任して

佐藤 哲



宮田理事長は常に明るく前向きであり、満場一致で再任されました。それを助ける神戸事務局長の働きも素晴らしいと思います。日展は現体制ですます繁栄すると思っております。

公募展が曲がり角にきて久しくなりますが今こそ我々ががんばらねばならない時です。最も大切なのは個々の作品の向上です。洋画の応募数を増やす努力をします。観客も増加させたいです。日展のすばらしさを世の中に再認識して欲しいのです。

日展副理事長に就任して

黒田 賢 一



引き続き副理事長という要職を仰せつかりました。

本質を大切にする中で常に新しい変化を取り入れていくという、松尾芭蕉が説いた不易流行の理念にもあるように、長い歴史と伝統を重んじながらも改革を加え、令和の時代にふさわしい日展を目指したいと思っております。

作家一人一人が研鑽を重ねてしっかりとした基盤を築き、それに立脚した作品づくりを精励し、さらに魅力ある日展となるよう努めていきます。

五科の絆をより強くし、皆様とともに歩んでまいりたいと思っておりますので、御支援いただきました、よろしくお願ひ申し上げます。

第90回定時総会報告



日時 令和八年五月二十七日
午後二時

場所 上野精養軒 桜の間

出席 四二五名(含議決権行使書)

宮田理事長が議長となり、左記の事項について報告、説明し承認可決した。

- (一) 令和七年度事業報告承認について
- (二) 令和七年度決算承認について
- (三) 令和八年度事業計画書報告について
- (四) 令和八年度収支予算書等報告について
- (五) 会員人事報告について
- (六) 選定顧問報告について
- (七) 理事・監事の改選承認について

その他の報告事項

- 1 令和八年度 称号授与予定者報告について
- 2 第一一八回日展巡回展開催報告について他

役員・会員新人事

令和八年五月二十七日付

新顧問

彫刻

能島征二 宮瀬富之

理事

理事長 宮田 亮平

副理事長 神戸 峰男

事務局長 土屋 禮一

副理事長 佐藤 哲

副理事長 黒田 賢一

副理事長 黒田 賢一

(◎は理事長 ◇は副理事長)

日本画

河村 源三 ◇土屋 禮一

西田 真人 福田 千恵

村居 正之

洋画

小灘 一紀 ◇佐藤 哲

斎藤 秀夫 町田 博文

湯山 俊久

彫刻

池川 直

◇神戸 峰男

山田 朝彦

勝野 眞言
栗山 賀行

工芸美術

大樋 年雄

三田村有純

吉賀 將夫

◎宮田 亮平
春山 文典

書

◇黒田 賢一

土橋 靖子

真神 巍堂

高木 聖雨
星 弘道

外部

河野 元昭

松本 正之

監事

日本画

山下 保子

工芸美術

河野 榮一

外部

内村 宏

会員新人事

新会員

令和八年三月十九日開催の理事
会において、左記二〇名が選出
された。

令和八年四月一日付

第一科 日本画 (四名)

石崎 誠和 辻野 宗一
村山 春菜 山内登喜雄

第二科 洋画 (三名)

小林 理恵 齋藤 均
高田 啓介

第三科 彫刻 (三名)

岡本 和弘 高砂 晴光
森田 一成

第四科 工芸美術 (五名)

小島 泰明 斉藤 晴之
桜田 知文 繁昌 孝二
堀 菱子

第五科 書 (五名)

石澤 桐雨 鹿倉 碩齋
金子 大蔵 中村 史朗
山内 香鶴

新準会員

令和八年三月十九日開催の理事
会において、左記二十四名が選出
された。

令和八年四月一日付

第一科 日本画 (六名)

稲田 雅士 笠川 武史
北川由希恵 木村 友彦
工藤 彩 前川 和之

第二科 洋画 (六名)

金築 秀俊 久保 尚子
関野 智子 山内 大介
山本 佳子 吉成 浩昭

第三科 彫刻 (三名)

酒井 華 田原迫 華
宮地 淑江

第四科 工芸美術 (六名)

井上絵美子 大西 重広
近藤 学 竹河いみ子
富岡 大資 西川 勝

第五科 書 (三名)

赤澤 寧生 小林 千早
辻 敬齋

新会友

令和八年三月十九日開催の理事
会において、左記一〇七名が選出
された。

令和八年四月一日付

第一科 日本画 (十二名)

大竹しおり 楠 暁子
久保見幸夫 栗焼 葉子
慶野 智子 佐久間香子
佐藤 正子 深谷いずみ
古田つた代 星野 宏喜
水野 宏 若崎 文絵

第二科 洋画 (十八名)

秋元 正志 岡島 真希
亀山 裕昭 桐生 義也
楠木 薫子 黒川 敬子
小林 年子 小松 正弘
根本 勝美 廣吉 壽史
北條喜美子 増田 真人
松本 和子 村雲 雅城
山本 大貴 山本 正憲
横田 律子 吉井 利雄

第三科 彫刻 (五名)

浮森 夕菜 佐藤 励
柴田 茜 園田 陽菜
高石 麻代

第四科 工芸美術 (二十三名)

荒木久仁子 今林 邦寛
上田 章子 浦野 真吾
大當真理子 大畑 桃子
倉橋 正伸 古岩井克彦

神 まさこ 竹下よし子
武田 直之 中川由紀子
中島 則子 萩原 博之
白野 順子 橋詰 里織
林 明代 ホムラモトゾウ
牧野 美枝 宮長 由紀
矢野 晃浩 山崎 恵
和田真理子

第五科 書 (四十九名)

浅原 晴泉 阿部 梨雪
荒木 敬子 石丸 真弥
伊勢 萌玉 伊藤眞理子
井上 聖子 植松 慈
大東 昌代 岡田 桃華
岡村 翠苑 岡本 雅月
河又世津子 北川 詩雪
木戸 綾子 木下ユミ子
葛井 玲華 國益 悦子
久保 礼子 熊原麻里子
小杉 翟峻 齋藤 禹月
佐野 玉松 静 一華
白石真由美 末澤 蘭溪
芹澤 翔華 専徒 伸夫
田頭 町子 高橋 華堂
竹内 抱雲 竹岡紗和子
田崎 眞璽 津崎 麗江
手塚生都子 寺田 千秋
中田 聰山 中部 光風
七岡 宏樹 西川 華扇
西野 桃笠 根ヶ山弘順
松田 弘子 丸林 玉芳
丸山 桂華 森山 南斗
山崎 慎也 横山 小軒
渡邊 富岳

第119回

日展

NITTEN

日本美術展覧会

公募

日本画 Japanese Style Painting	洋画 Western Style Painting	彫刻 Sculpture	工芸美術 Craft as Art	書 Sho
個人入選日 10.15日 16日 団体入選日 10.16日	個人入選日 10.9日 10日 団体入選日 10.11日	個人入選日 10.17日 18日 団体入選日 10.18日	個人入選日 10.9日 10日 団体入選日 10.11日	個人入選日 10.6日 団体入選日 10.6日 7日

入選発表：日本画・洋画・彫刻・工芸美術 ※期日：国立新美術館 地下1階 作品展示室（東京都港区六本木7-22-2） Tel. 03-4532-0931 ※会期：11月10日～11月14日
 書 ※期日：国立新美術館 地下1階 作品展示室（東京都港区六本木7-22-2） Tel. 03-4532-0931 ※会期：11月10日～11月14日
 彫刻 ※期日：国立新美術館 地下1階 作品展示室（東京都港区六本木7-22-2） Tel. 03-4532-0931 ※会期：11月10日～11月14日
 工芸美術 ※期日：国立新美術館 地下1階 作品展示室（東京都港区六本木7-22-2） Tel. 03-4532-0931 ※会期：11月10日～11月14日
 入選発表：日本画・洋画・彫刻・工芸美術 ※期日：国立新美術館 地下1階 作品展示室（東京都港区六本木7-22-2） Tel. 03-4532-0931 ※会期：11月10日～11月14日

第119回 日本美術展覧会 2026年 10月30日（金）～11月22日（日） 休館日 11月4日（水）・10日（火）・17日（火） 国立新美術館

※ 開催情報は「日展ウェブサイト」<https://nitten.or.jp/> でご確認ください。 主催：公益社団法人 日展

The Japan Fine Arts Exhibition



第119回 日本美術展覧会

会場 国立新美術館
東京都港区六本木7-22-2

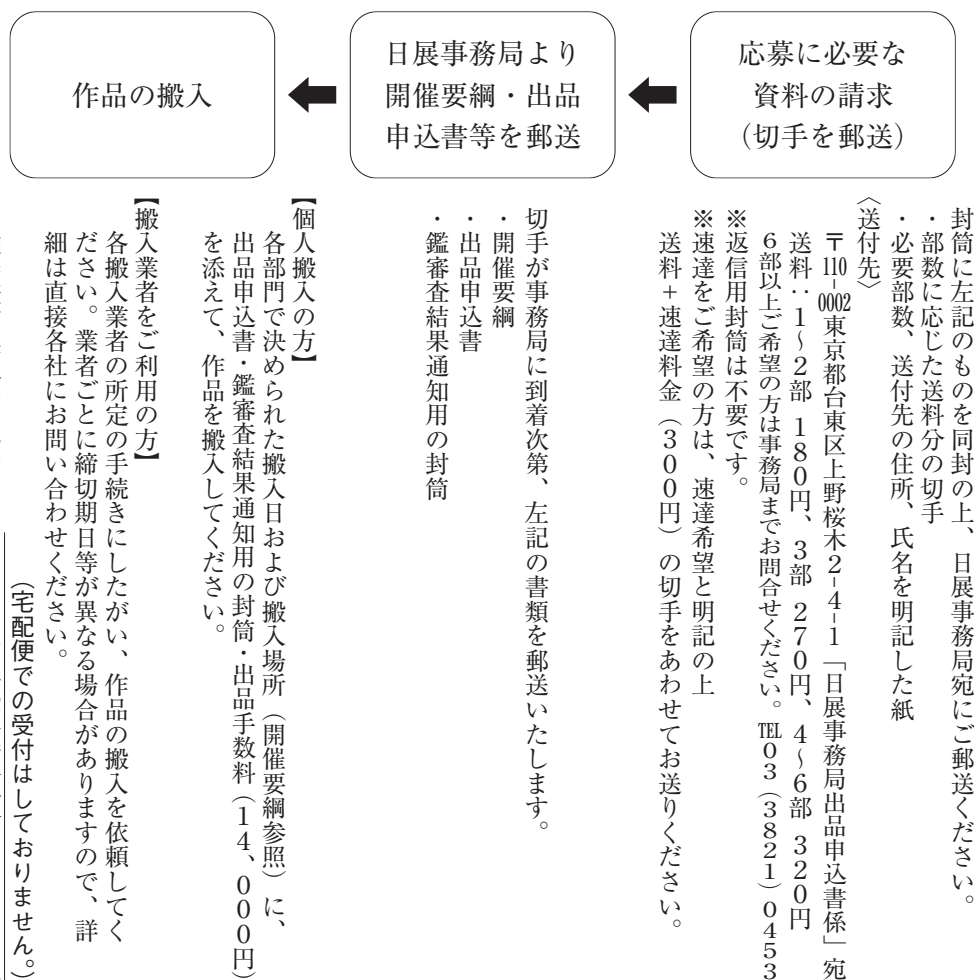
会期 令和8年10月30日（金）～11月22日（日）
休館日 11月4日（水）・10日（火）・17日（火）

観覧時間 午前10時～午後6時（入場は午後5時30分まで）

主催 公益社団法人 日展

※ 最新の開催情報は「日展ウェブサイト」<https://nitten.or.jp/>で確認下さい。

応募の流れ



日展会員、準会員、会友の方々の出品票発送予定

○会員、準会員、前年度特選受賞者…9月初旬頃

○会友…8月中旬から下旬頃

この度日展会員委嘱を賜り光栄です。これから会員の名に恥じぬように努め、日展出品者とその作品との交流に刺激を受けながら自身の制作を律し、一年一年を大切に出品していきたいと思います。よろしくお願いいたします。

日本画 石崎誠和



《まじわる冷氣》 石崎誠和

ご挨拶申し上げます

新会員より



《彼岸》 辻野宗一

このたびは会員に承認いただきありがとうございます。これまで積み上げてこられた歴史に恥じぬよう、責任の重さを自覚して参ります。これからも自然と対話しながら、画面に向き合い、新たな表現を模索していきたいと思います。

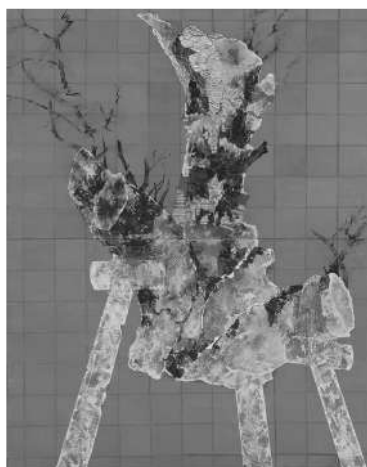
日本画 辻野宗一

これからも今まで通り制作に全力で取り組みたいと思います。また自己研鑽のため今までに無い新しいモチーフにもどんどんチャレンジしていきたいと思います。邁進して参りますので、ご指導ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願い申し上げます。

日本画 村山春菜



《赤い鉄骨》 村山春菜



《融合》 山内登喜雄

私は、絵を描き続けることでしか表現できない人間です。私にとって日展は作品発表の場であり、自身を成長させてくれました。これまでご指導いただいた先生や先輩方に感謝し、今後も身を引き締め制作に励んでまいります。

日本画 山内登喜雄



《雪解けⅡ》 齋藤 均

この度は、伝統ある日展の会員に承認いただき誠にありがとうございます。これまで多くの皆様方に支えられてきました。心より感謝申し上げます。今後も探求心を忘れずに、自然の美しさを少しでも表現できるよう励んで参ります。

洋画 齋藤 均

作品図版
第118回日展出品作
2025（令和7年）

長年の夢でありました日展の会員にご承認いただき心よりお礼申し上げます。これを機により個性ある絵を目指して頑張っていきます。今後共ご指導よろしくお願い申し上げます。

洋画 高田啓介



《冬の海》 高田啓介



《遠い夏〜ボトル・ジャスミンティ〜》
高砂晴光

日展会員という榮譽に浴し、身の引き締まる思いがいたします。先生方、先輩方のご指導に深謝申し上げます。私は彫りと摺りで表現する木版画に魅せられ、夢中で制作をしまいにしました。今後は一層の覚悟をもって精進をいたす所存です。

洋画 小林理恵

素晴らしい伝統のある日展の会員に加えて頂き、お導きいただいた諸先生方、諸先輩、共に制作する仲間から感謝申し上げます。精進を重ね、作品において真に自分自身が表現したいものとは何なのかを問い続け、追究していきたいと思ひます。

彫刻 高砂晴光



《木版横浜39・煌廟》 小林理恵



《すずらんのひと休み》
森田一成

歴史ある日展の会員に推挙され思いを新たにいたします。先生方に深く感謝し、木彫の伝統を継承しつつ、新たな表現方法を模索・素材と対話・命の物語を形に、心に届く作品を目指して一層の研鑽を積み制作に邁進いたします。

彫刻 岡本和弘

日展会員に推挙いただき、責任の重さを痛感いたします。昨年は初めて審査にも携わり、作品を見る立場の重みを知りました。自作も違った目線で見られるのだと思うと、自身の制作とも改めて向き合わねばと感じました。

彫刻 森田一成



《旅の栞と揺れる窓帷》 岡本和弘



《リラティブ (相対)》
齊藤晴之

この度は会員への承認、誠にありがとうございます。日展へは3度目の挑戦で1993年に初入選いたしました。33年かかりましたが、ようやくスタートだと思っております。精進してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

工芸美術 桜田知文

この度は、歴史ある日展の会員に推挙して頂き誠に有難うございます。その道を拓かれた多くの先生方の姿勢に羨望と憧れを持って、ここまで来ることができました。これよりは、更なる想いを込めて、独自の空間造形を目指し新たな扉を開くことを決意いたします。

工芸美術 齊藤晴之



《「合掌」ノーマアヒロシマ
ノーマアナガサキ》
桜田知文



《波と舟》 小島泰明

日展会員という重責を機に「鉄の形は鉄に聞く」という初心を深め、素材に宿る必然の形を追究して参ります。鉄が放つ自然な静寂を通じ、観る者が自らの記憶と共鳴できる普遍の造形を刻みたく、一意専心、鍛金制作に励み、その声を日展の未来へと繋ぐ決心です。

工芸美術 小島泰明



《流光》 堀 菱子

この度は、日展の会員に承認して頂き、緊張と責任を重く、受けとめています。これからも、作品制作という大きな目標に向かって、日々感じている自然界の様々な現象を、感受し、心象風景として型絵染の技法で、表現していきます。

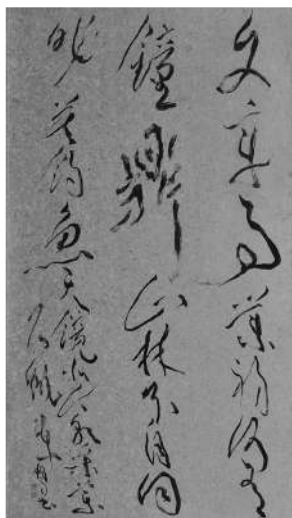
工芸美術 堀 菱子

この度会員に推挙して頂き心から感謝致しております。より独創的で魅力的な工芸作品を追求していきたいと考えております。また、日展をはじめ展覧活動の活性化と、日本の伝統文化の維持向上に貢献できるよう努めたいと思います。

工芸美術 繁昌孝二



《新生》 繁昌孝二



《陸游詩》 石澤桐雨

今年度会員に就任させて頂き有難うございました。今後も日展の発展を願い微力ですが尽力して参りたいと存じます。

日展出品作品は出来るだけ作品形式や文字数、作品の表現などを変えて制作してゆく様努力して参ります。

書 石澤桐雨

日展の新会員として、先人が築き上げた悠久なる書の神髄を次世代へと繋ぐ“継承と保存”、そして現代に呼応する“発展”に尽力するとともに、若手作家として情熱を持って研鑽に励み、書道界の更なる飛躍に貢献していく所存です。

書 鹿倉碩齋



《奔瀟》 鹿倉碩齋



《正岡子規句》 金子大蔵

長い歴史と伝統ある日展の会員にさせていただき厚く御礼申し上げます。今まで以上に日常での緊張感を感じ成長していかなければと思っております。先達が築いてきた日展を汚さぬよう、日々精進し良い作品を発表していきたいと思ひます。

書 金子大蔵

この度は伝統ある日展の会員に就任させて頂きまことにありがとうございます。師や先輩、同僚に恵まれ継続して筆を執ることができました。今後は、日展の先達の軌跡に向き合いながら精進する所存です。皆様のご指導をお願い申し上げます。

書 中村史朗



《蘇東坡詩》 中村史朗



《夜上受降城聞笛》 山内香鶴

この度は歴史と伝統ある日展の会員にご推挙賜り身に余る光栄と感謝申し上げます。微力ではございますが責務を全うすべく、自らに真摯に向き合う気概を持って精進して参る所存でございます。何卒ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

書 山内香鶴

「夏休み一日ART体験」

第21回『One Day Art』

制作の体験だけじゃない、作家を、展覧会を体験できる『One day Art』。今年も子供たちの挑戦の夏が来ました。学校ではできないようなジャンルも、日展作家が丁寧に指導します。

(保護者の皆様へ)

「作品をつくる」体験をし、作品や作家とのかかわりを通して、多様な世界観を学んでほしい。日展の芸術文化普及活動です。

主催

公益社団法人 日展

開催日程

7月19日(日) 彫刻
7月20日(月・祝) 日本画
7月26日(日) 工芸美術(革)
8月1日(土) 洋画(版画)
8月2日(日) 書

※時間は各回で異なります。

☆作品展は、8月18日～23日

日展会館で開催します。

場所

日展会館
東京都台東区上野桜木2-4-1

参加者募集!

参加費(※教材費等)

1名 二、五〇〇円

指導作家・内容

※詳細はHPでご覧になれます

応募方法

★ハガキ、FAX、メールで、住所・氏名・電話番号・学年・希望日(必ず第2希望まで)を明記。

★子供が2名以上で参加希望の場合は、参加者全員の住所・氏名・電話番号・学年・希望日を記入

★保護者が実技参加を希望される場合は、参加の有無と氏名を必ず記入して下さい。

※締め切り7月9日(必着)

定員 各回 40名程度

※見学の大人は人数に含まない



(前回の様子)

賛助会員制度 《日展パートナーズ》

日展では平成29年より、日展の公益事業活動に賛同し、財政的にサポートしてくださる方々を対象とした賛助会員制度「日展パートナーズ」を設け、運用いたしております。

令和8年5月末現在のご加入者は左記の通り(掲載希望者のみ)。

●個人

東 晋一郎様	飯田真未様
石崎國夫様	井谷善恵様
井上道守様	今田功一様
今村忠司様	梅崎 壽様
角井 博様	兼重勇希様
栗原直子様	呉 祐輔様
黒田浩平様	児玉安司様
近藤禎男様	坂本美賀子様
佐川かおる様	澤井和行様
高木和美様	高木寛史様
田頭明子様	田頭益美様
高橋千笑様	竹尾明子様
竹本葉子様	田中宏欣様
土屋礼央様	寺岡宏高様
中室里恵様	西田俊通様
西村潤帰様	西村友子様
野田裕一様	藤田理恵子様

藤本真之様 堀 稲子様
宮島幸男様 村里 暁様
森寫順子様

●法人・団体

株式会社 IDホールディングス様
株式会社 大垣共立銀行様
岡崎信用金庫様
株式会社 玉蘭堂様
謙慎書道会様
一般社団法人 光風会様
公益社団法人 創玄書道会様
株式会社 高山草月堂様
株式会社 筑波銀行様
T&Tパートナーズ法律事務所様
一般社団法人 東光会様
東洋額装 株式会社様
株式会社 西文明堂様
公益社団法人 日本書芸院様
ニユーカラー写真印刷 株式会社様
株式会社 原汲古堂様
一般財団法人 ビオトピア財団様
福井素鳳堂様
有限会社 みなせ筆本舗様
一般財団法人 桃園学園様
株式会社 谷中田美術様
菱三印刷 株式会社様
株式会社 和光様

心の揺らぎをとらえる

(洋画) 加藤 久子

熊本県は九州の中央に位置し、阿蘇の山並みや「宝島」と称される天草など、豊かな自然に恵まれています。また、山鹿灯籠をはじめとする数多くの伝統工芸も大切に受け継がれてきました。一方で、二〇一六年の熊本地震をはじめとする災害など、さまざまな歴史の記憶も刻まれています。

私は、絵とは対象物を通して、人の意識や無意識の深層を描き出すものだと考えています。人の笑いや悲しみは、顔だけでなく、手や足、さらには全身からにじみ出るものです。それを感じ取るためには、周囲の人々との関係性を大切にし、自らが感激し、愛し、望むことによって、「絵画の眼」を育てていくことが大切だと思います。

熊本という土地から受け取る雄大な自然や文化、そして「自分の眼」で見るという意識と感性、そこから生まれる自身の心の揺らぎを手がかりに、今後も絵画制作を続けていきたいと思っています。

(熊本県在住)



歩みの中で、かたちを探る

(工芸美術) 高森 絢子

歩みを思い返してみると、日展に挑戦し始めてから、初入選の知らせをいただいた頃のことや、右も左も分からぬまま出品していた頃を振り返ると、今まで制作を続けてこれたこと自体が、何にも代えがたい歩みであったと感じています。

日展は私にとって、自らの表現と真摯に向き合う場であり、多くの優れた作品に触れながら学び続けることのできる大切な道標でもありました。出品を重ねるたびに、陶という素材の奥深さと造形の難しさ、そしてものを作る意味を問いつづけてきました。

近年、能登半島地震をはじめとする出来事を通して、自分の仕事について改めて思いを巡らせる時がありました。好きなことを続けてきた自分が、表現を生業とする者として何ができるのかを改めて問い直す機会となりました。

これまでの歩みを振り返りつつ、これからも一つ一つの制作に真摯に向き合いながら、土に触れる日々の中で、自分にしかできないかたちを探し続けていきたいと思っています。

(石川県在住)



各地からの

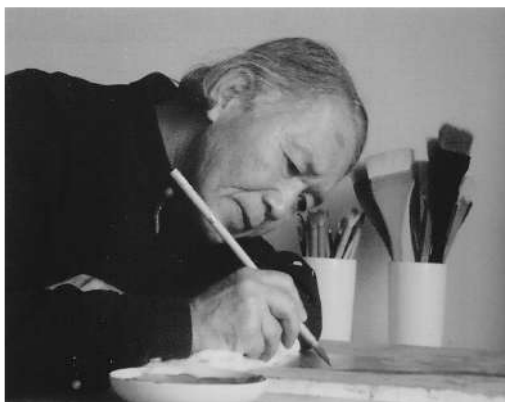
なぜつくるのか？

(彫刻) 山本 将之



自問自答

(日本画) 立花大聖



私の住む野田市は千葉県北西部に位置し、古くから醤油の産地となつています。

自宅側の江戸川サイクリングロードから遠くに筑波山、富士山、日光の山々が季節毎の味わ

いをもって眺望できます。

日展へ出品を始めて十一年目となります。展覧会で多くの作家と出会い、切磋琢磨する喜びを味わうことができました(私の一方的な思いですが)。

身近に相談したり指導助言に接したりする環境にないので、制作は始終「自問自答」スタイルです。テーマ追究の定点観測のため、自問しやすいようにノートへ思いつきや曖昧な思索を言語化するようにしております。自答は構成やマチエールの工夫等で画面上に行いますが、その都度の自己評価が即自問自答です。

年に一度の展覧会は、私の貴重な研究の場となります。これからも日展の縁に感謝し精進してまいります。

(千葉県在住)

出品者の思い

北の大地から

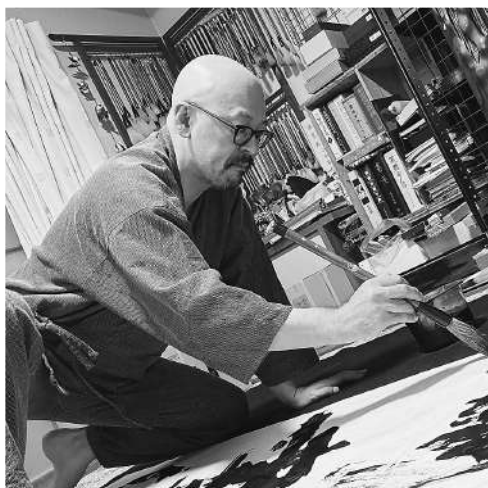
(書) 小林融之

北海道に生まれ、暮らしてきました。広大な自然、厳しい気候や風土は私の原風景となり、しっかりと体に染みついているものと思います。書の道を志して以来、「風土と表現」というようなことを考えてきました。自然と墨は濃い目で、表現も重厚でスケールの大きなもの、力強さといったものを多く求める傾向にあると思っています。一方で、若き日に初めて日展の会場に足を踏み入れた時の衝撃は大きなものがありました。それまで志向してきたものとは真逆な洗練された都会的な表現。気品

の中にも多様な作品それぞれが放つオーラと、それらが交差する厳しい空気のようなものを感じ、それはそのまま、自分にとっての憧れともなりました。

初出品より四十年ほど経ちました。私の挑戦と試行はこれからも続きます。北の風土性をはらみながらも、格調のある、凛とした作品を求め、これからも精進してまいります。

(北海道在住)



「日展」に向かう際、私は「『うまく』つくる」ことより、「なぜつくるのか？」を問い直します。大学教員として幼児造形に関わるなかで、子どもたちの線や形は、意味になる前から息づいていることを実感し、はみ出した線や汚れも、素材と向き合った時間の足跡として輝きます。子どもは試してはやり直すうちに、自分がここにいることを確かめます。言葉にしきれない感覚や記憶は、そうした足跡を通して形になり、この世界に残ります。

私の制作もまた、その「残り方」を選ぶ仕事です。思いどおりにならない揺らぎに身を委ねながら、残すかたちを見極め、作品の核を立ち上げます。日展には審査がありますが、作品の目的は技巧ではなく、感覚の震えを他者に届けるための橋渡しだと考えています。幼児の造形の足跡を胸に、見る人の心がフツと動き出す入口を、今年も探りたいと思います。

(大阪府在住)

作家人生―私の仕事―



《アンティークな屏風の前で》
(令和7年 第118回日展出品作)



《清新》
(令和元年 改組 新 第6回日展出品作)
内閣総理大臣賞



私の作家人生

第二科洋画 理事 斎藤 秀夫

福島県立福島商業高等学校を卒業し三菱重工に入社、農業機械と小型エンジンの輸出の仕事をした。仕事は順調で楽しかったが、毎日の通勤ラッシュが嫌になって五年目に退職した。失業保険を貰いながらこれから何をやるか考えて散策していた時に伊藤絵画研究所の看板が目に残った。中学生の一時期絵が好きな時があったことを思い出し研究所を覗いたら、高校生位の若者が一心不乱に石膏デッサンをしていて、うす暗いアトリエの中で木炭のシュッシュツという音だけが響いていた。

銀座や上野を飲み歩いていたサラリーマン時代を思い返すとこんなに一生懸命になれることがあるとは引きつけられ、すぐに入所手続きをし翌日から通い始めた。昼で仕事が終わる築地の場外で働きながら三年程通ったが、インスタントラーメンを日に二食、それと食パンの耳の生活は流石にきつく、身体の方もそろそろ限界かなと感じ始めていた矢先、伊藤清永先生に呼ばれて「研究所の世話係の仕事に住み込んでやらないか」と尋ねられ、即座に引受けた。正に天の助けだった。

一年程で白日会に出すよう勧められ、その後日展にも出品するようになったが、日展にはなかなか入選出来ず、初入選は一九七八年、実に初応募から七年程かった。一九九四年、伊藤先生が「君も絵のことが少し判ってきたようなのでヨーロッパに行つて絵を觀て来なさい」と旅費から小遣いまで出して送り出してくれた。イタリアを旅した帰路にパリのオランジュリー美術館でモネの睡蓮の部屋に入った時の驚きと感動は今も忘れられない。何色と何色が響き合い、この様な倅せな感情を湧き起こさせるのだろうか等考えながら、たった一人で何時間も至福の時を過ごした。

印象派の絵が好きで、美しい色彩は人を倅せにすると漠然と感じていたものが確信に変わったのもこの時だったように思う。これからは心が安らぎ気持ち温かくなるような美しい絵を描いていきたいと思う。



《窓一雨宿り》（平成3年制作）



《海の番人》
（平成17年 日彫展出品作）



《暮れなずむなかで…》
（令和7年 第118回日彫展出品作）



《昨日見た夢》
（平成4年 第24回日彫展出品作）



心の眼

第三科彫刻 監事 栗山賀行

私は一九六六年、十八歳で彫刻家澤田政廣師の内弟子になりました。ノミの使い方も知らなかった私を十二年間辛抱強く見守って下さったお陰で、今も彫刻の道を歩んでいます。アトリエにいる事が一番心の落ち着く私はただその中で制作を続けて来ただけなので、原稿依頼があり何を書こうかと思いを巡らした時、ある事が心に浮かびました。

それは一九九二年に開いた個展の折の事です。生まれながらに視覚に障がいを持った友人が「私も彫刻が観たい！」という言葉から手で触れて見るといふ試みが加わりました。

オープン前日の会場は、作品達が揃って出番を待っている様などときめきが伝わって来て、私は好きです。その時は小さな試みが加わったためか、小学生の頃の学芸会開幕前の様でした。多くの方が共感して下さり、小石は嬉しい波紋をつくりました。

「見る」という事は目の役目と当たり前の様に思っていた私にとつて「手で見る」という事は衝撃的でもありました。まるで作品を取り巻く空気の流れまで感じとってしまうのではないかと思います。そっと触る事によつて心の眼が物を見るのでしょうか。

『窓一雨宿り』の作品に触れながら「手が庇から出ているのは雨が止んだのを確かめているのでしょうか」と、尋ねた方がいました。この私のささやかな意図である指先が少し庇より出ている距離感にも気づいてくれました。

物を見るのは「目」と思っていると見える事だけに捕らわれて肝心な事を見落としてしまったり、見えているつもりが、一面しか見えていなかったりする様です。

私は、制作した「物」が人に観てもらふ事によつて「作品」に変わるような気がしています。視覚に関わりなく、観る人各々に何かを感じてもらえる作品を、これからは制作したいと思っています。

教えて、作家さん！
わくわくワークショップ
「手紙を書こう！」

「如来は」の部分が少し掠れているのが目に引き寄せられました。私は作品名の『アルカイク・スマイル』という言葉を感じ上げなかったのですが、古拙の微笑みからその言葉にたどり着く発想力に感嘆しました。また、文字の位置取りや形の大きさにも感嘆しました。私は書道を始めてまだ1ヶ月ですが、いつか大崎さんのように迫力のある字を書けるようになりたいです。書道を長く続ける上でのコツや、おすすめの筆などを教えていただけると嬉しいです。よろしくお願いいたします。

志帆さん 15歳



（書）大崎雨萩
《アルカイク・スマイル》

お手紙ありがとうございました。私の作品に興味を持って下さったようで、大変うれしく思います。実際に見たもの、感じた事、自身の言葉を書作品で表現できる喜びは、調和体の独自性と言えるのかもしれません。是非、チャレンジしてみてください。書道を長く続けるコツとのご質問ですが、書道は書くだけではなくその周辺、例えば文房四宝（用具）のことや書の歴史、古典など学ぶことの大変多い芸術で、限りなく奥深いものです。書くという学びの他に、まず学びやすいことからテーマをきめて、探求していく意識を高めることだと思います。

今回使用した筆は仿古堂の金剛、サイズは三種をその時々、墨の濃度や紙質に応じ使い分けました。書は鑑賞も大切です。どこかの展覧会でお会いできるかもしれませんね。

がんばって下さい。

大崎雨萩



（日本画）大竹しおり 《夢見の在処》

「わくわくワークショップ『手紙を書こう！』という、小・中・高校生から気に入った作品の感想や質問を集める企画を実施しました。6年目の今年も486通のお手紙をいただきました。

平面の一枚絵としてだけでなく、立体的な起伏ができていて、雨一すじ一すじが美しくきわだっていて、どこからみても楽しくて、心安らぐ作品だなと思いました。

作品中の螺鈿の、木についている木の葉も、貝のゆらめくような輝きによって、ひらひらと舞い落ちる姿を想像させられました。とても素敵です。今回の作品のテーマには、雨を選ばれておられましたが、先生の雨についてのエピソードや、こんな雨が好きなど天気にもつわるお話をお聞きしてもよろしいでしょうか？

葉さん 17 歳



(工芸美術) 武田 司 《白驟雨》

「白驟雨」は秋の季語ですが、ものがなしさよりも凜とした清韻の気を感じます。萩の花が雨後の上昇気流に舞う花卉も驟雨から気付かされた情景です。日本には人々の生活や自然を表わす雨にまつわる言葉が沢山あり、その響きで情景が想起されます。

「瑞雨」「慈雨」「穀雨」などの恵みの雨や「桜雨」「青雨」などは樹々の間を歩いている気分になります。以前、書のお稽古で習った和歌「春雨の花の枝より流れ来ばなほこそぬれめ香もうつつるやと」藤原敏行朝臣は花・枝をつたってきた雨滴なら、濡れても花の香がうつるかしら…なんて雨を楽しんでいる歌です。

私もお花見に出かけたら途中から雨が降ってきてしまったことがありました。おでこに雫があたりましたが、桜の香りがうつるかな？と思うと少し嬉しくなったことを思い出しました。細やかに鑑賞して下さった様子が伝わりとても嬉しかったです。有難うございました。

武田 司

全体的にははっきりした色じゃなくて、うすい色なのが、気に入りました。

どんな道具や絵の具を使って書きましたか。どのくらい時間がかかりましたか。なんで、この絵を描こうと思いましたか。私も妹と二人姉妹なので、この絵が気に入りました。

桃佳さん 9 歳

素敵なお手紙を書いていただき、ありがとうございます。また、作品を気に入って頂けてとても嬉しいです。ご感想でいただいていた絵具の種類は、日本画岩絵具というもので、宝石を砕いたものや土で作られている絵具を使って描いています。作品にかけている時間は2ヶ月くらいになります。私の姉と姪っ子姉妹をモデルにしている、何気ない親子の日常から温かな雰囲気を感じ取って、心の温まるような作品を作りたいと思い、日々絵を描いています。

大竹しおり

第 118 回 日 展 巡 回 日 程

開催地	会期	会場	開催者	入場者数(人)
東 京	令和 7 年 10 月 31 日～11 月 23 日	国 立 新 美 術 館	公益社団法人 日 展	84,884
京 都	12 月 20 日～ 令和 8 年 1 月 17 日	京 都 市 京 セ ラ 美 術 館	日展京都展実行委員会	24,595
名古屋	1 月 28 日～2 月 15 日	愛 知 県 美 術 館 ギ ャ ラ リ ー	中 部 日 展 会	38,540
大 阪	4 月 16 日～4 月 25 日	大阪市立美術館天王寺ギャラリー	公益社団法人 日 展	24,648
安曇野	5 月 2 日～5 月 31 日	安 曇 野 市 美 術 館	安曇野市美術館 公益財団法人安曇野文化財団	11,671
金 沢	6 月 6 日～6 月 21 日	石 川 県 立 美 術 館	北 國 新 聞 社	

刊行物のご案内

第一一八回日展作品集

- 定価 三、五〇〇円（税込）
- 五部門の全会員・審査員・受賞者の作品図版
- 作家名・作品題名の英訳（巻末）
- 別冊 作家本人による作品解説、釈文（書）
- 諸資料
- A4判変型
- オールカラー 一五二頁
- 表紙 渡辺信喜・小灘一紀・山田朝彦・春山文典・土橋靖子（出品作）

第一一八回日展図録（五部門五分冊）

- 定価 各三、五〇〇円（税込）
- 東京会場の全陳列作品図版・目録を収録（作家名・作品題名の読み仮名・英訳付）
- 全作品に作品寸法、工芸美術には技法を表記
- 審査所感、授賞理由ほか諸資料
- A4判変型

第一科『日展の日本画』

- オールカラー 六八頁
- 表紙 渡辺信喜（出品作）

第二科『日展の洋画』

- オールカラー 一三六頁
- 表紙 小灘一紀（出品作）

第三科『日展の彫刻』

- オールカラー 五六頁
- 表紙 山田朝彦（出品作）

第四科『日展の工芸美術』

- オールカラー 一二〇頁
- 表紙 春山文典（出品作）

第五科『日展の書』

- 全会員・審査員・篆刻はカラー、準会員・無鑑査・特選・一般入選はモノクロ 二二四頁
- 表紙 土橋靖子（出品作）
- （問い合わせ先）
- T110-00002
- 東京都台東区上野桜木2-4-1
- 公益社団法人日展 出版物係
- 電話 03（3821）9543

表紙

「浅間山・冬（浅間山・風）」

一九六六年（昭和四十一年）

第九回日展

F40・油彩

小山敬生（敬三）

（一八九七～一九八七）

日展史第二九巻掲載

小諸市立小山敬三美術館蔵

左の先生方が逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。

森脇 仁士先生（日本画会員）8・3・2
守長 雄喜先生（洋画会員）8・3・25

編集後記

平穏と平和が一番いい。種々心配ごとの多い昨今です。

壮大な自然の営みを感じさせる小山敬三先生の作品が今号の表紙です。初めて先生の作品に接したのは、一九七四年日展の「白鷺城」シリーズの一枚でした。写真様式の多様性が注目された、そういう時代です。

なお、今号では定時総会報告や日展の「応募のご案内」などを掲載したほか「作家人生―私の仕事」では、お二人の先生から師との出会いや一筋の足跡を綴っていたいただきました。

秋の展覧会に向けて制作に傾注しようとしているこの時期ですが、灼熱の暑さが続く気配をいや応なく感じさせます。

日展は、幅広い方に見ていただける大きな舞台です。魅力あふれる作品で埋め尽くされることを確信しています。

（松野）

編集委員

亀山 祐介 西田 真人
浅見 文紀 松野 行
野原 昌代 堀内 秀雄
上原 利丸 古瀬 政弘
歳森 芳樹 山本 大悦